有ツ組織シ以テ労力ノ需給ヲ円満ナラシメントス

四、本会ノ対外関係

大正四年（一九一五年）六月北米合衆国桑港ニ於テ万国労働大会開催サルヽニ当リ会長鈴木文治之ニ出席ノ傍ラ米国内ニ於ケル労働問題研究ノ目的ヲ以テ渡米シ会合閉会後偶「サンタロー」市ニ於ケル加州労働大会ニモ参加シ其席上「世界ノ労働者ハ共通ノ敵ヲ有シ又共通ノ利害ヲ有ス而シテ此ノ共通ノ敵ヲ斃シテ共通ノ利益ヲ完フセンガ為メニ人種並ニ国境ノ差別ヲ超越シテ協力一致スルノ外ナカルベカラズ」ト演説セリ鈴木ガ米国労働会議ノ権威者（サミユールゴンパース）ニ面識ヲ得タルモ此ノ際ニアリシガ加之次テ其翌年十一月加州「ユレカ」市ニ加州労働党第十七回紀念会ノ開催サルヽヤ鈴木ハ友愛会代表者トシテ渡米出席シ我国労働界ノ状況及将来ノ企図ニ就テ一場ノ演説ヲ試ミタル後明年東京ニ於テ友愛会創立五週年記念事業執行ニ付其代表者ノ臨席ヲ希望スル旨ヲ述ベ正式招待状ヲ手交セリ

之ニ対シ会党ニテ代表者派遣ヲ議決シ其準備ニ着手セルモ時恰モ米独国戦ニ際会セルヲ以テ止ミタリ此ノ旅行ニ於テ鈴木ハ「メリーランド」州ノ「ボルチモア」市ニ於ケル全米労働大会及万国協員大会ニモ出席シテ大正六年二月帰国セリ此ノ両度ノ渡米中ニ於ケル鈴木ノ言動ハ動モスレハ階級闘争主義ヲ鼓吹シ就中加州ユレカ市ニ於ケル演説ノ如キハ甚ダシク穏健ヲ欠ク嫌アリシカ此過激ナル言動ヲ敢テセシハ其当時米国ニ於漲セル排日思想ハ畢ニ人種的嫌悪ノ念ヨリ来レルニアラズシテ寧ロ経済上ノ労働競争ニ根底ヲ有スルモノナルヲ観取セル彼レハ之カ緩和策トシテ日米両国労働団体互ニ共同ノ態度ニ出ヅヘキコトヲ声明スルノ得策ナルヲ信シタルニ因ルモノト謂ヘシ此件ニ関シ渡米前渋沢栄一ノ諒解ヲ得会々ヨリ旅費ノ給与ヲ受ケタル事実アリ由是観之彼ノ協米中ニ於ケル言動ハ必スシモ其心裡ト一致セルモノニアラズト推スルヲ得ヘシ

而シテ彼レガ渡米ハ幾分米国労働者ノ対日感情ヲ融和セルモノヽ如ク日ハ当時植原桑港総領事ヨリ其旨ノ電報アリタルニ坐スルモ其一切ヲ窺フニ足ル大正六年八月米国ニ於テ鉄材輸出禁止ヲ施行セントセルヤ同年九月五日本部楼上ニ友愛会鉄工大会ヲ開催シ之レカ解禁運動ノ開始ヲ決議シタル後会長鈴木文治及衆議院議員小山東助等ノ演説アリ其際ニ於ケル決議文及決議事項左ノ如シ

決　議　文

米国鉄材輸出ノ禁止ハ帝国ノ産業上ニ甚大ナル打撃ヲ与ヘ殊ニ吾人鉄工業労働者ニ取リテハ実ニ死活ニ干スル重大問題ナルヲ以テ茲ニ満場一致ヲ以テ極力解禁ノ目的ヲ貫徹センコトヲ期ス

大正六年九月五日

友愛会鉄工組合

決　議　事　項

一、委員長ハ本会ノ決議ヲ齎シ関係諸官省ヲ歴訪シテ米鉄解禁ノタメ具申スル事

二、米国労働会長「サミユールゴンパース」ニ電報ヲ以テ解禁方尽力ヲ乞フコト

三、広ク全国ノ企業者ト提携シ世論ヲ喚起シ極力解禁ノ目的ヲ計ルコト

四、本会ノ運動費千円ヲ約シ百円トシ寄附金ヲ募リ之レニ充ツルコト

五、本会ニ於テハ鈴木文治ヲ委員長トシ支部長幹事廿五名ヲ委員トス

六、本会ノ運動ニ干スル一切ノ事ヲ委員長ニ一任スル事

以上ノ決議事項第二項ニ基キ九月十日米国労働同盟会長サミユルゴンパースニ宛テ電報ヲ発セリ

米国ノ鉄材輸出禁止ハ二十万ノ造船職工及鉄工労働者ノ幸福ヲ脅カス事大ナリ我友愛会ハ茲ニ全国大会ヲ開キ満場一致ノ決議ヲ以テ貴下ガ此難問題解決ノタメ尽力アランコトヲ望ム

又一面機ヲ全国ノ支部ヘ会ニ飛シテ立タシムルト共ニ東京、大阪、神戸、横浜等ノ重要都市ニ於テ演説会ヲ開催シテ気勢ヲ昂ゲルニ努メタリ